

ヒベイロ ジオネイ 山梨県庁

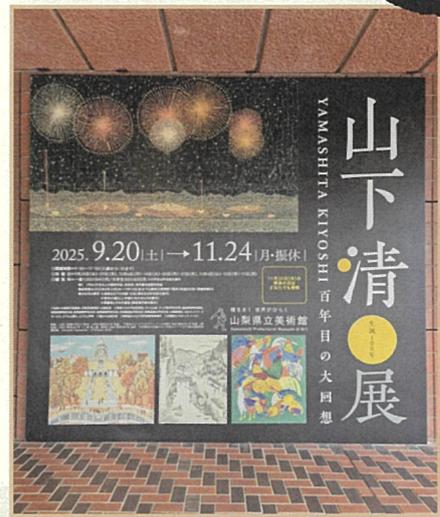
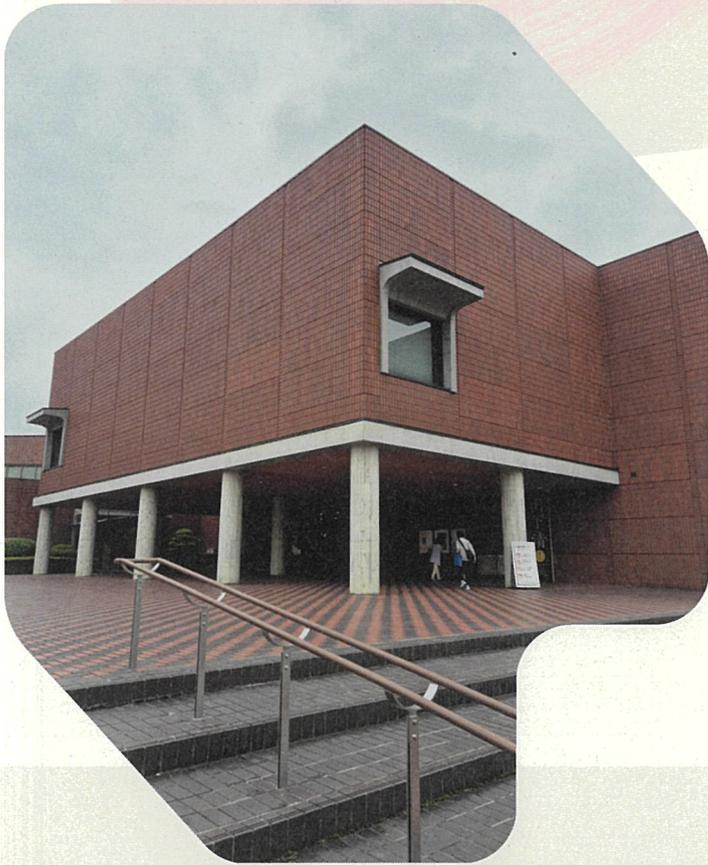
山梨では、美しい自然を楽しむだけでなく、充実した文化散策も楽しむことができます。県でも芸術に興味を持つ人にとって特に魅力的なのが、山梨県立美術館です。

1978年の開館以来、美術館は山梨の文化的象徴として親しまれ、とりわけ「ミレー館」という愛称でも知られています。その名の通り、美術館には世界的に有名な「種をまく人」をはじめ、ジャン＝フランソワ・ミレーの作品が70点以上所蔵されています。

さらに、美術館には19世紀フランスの芸術運動であるバルビゾン派の作品も多数収蔵されています。自然や農村の生活を人間的かつ詩情豊かに描いたその作風は、農業と自然との共生が育んだ山梨の風土と深く響き合います。

地理的には遠く離れていても、芸術は人々の心をつなぎ、共感を生む力を持っています。

数ある企画の中でも注目したのは、「生誕100年 山下清展－百年目の大回想」です。「放浪の天才画家」と称される山下清は、緻密で色彩豊かな貼絵作品で知られています。



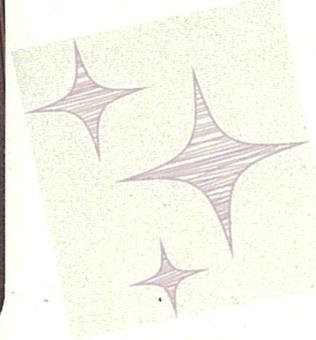
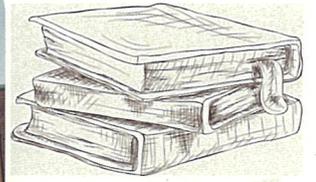
本展では、貼絵のほか、鉛筆画、水彩画、油彩、版画、陶器絵付けなど約190点を展示。旅に使ったリュックサックや身につけていたブレスレット、日常着として愛用した浴衣など、貴重な愛用品も紹介されています。

作品の展示からは、幼少期の養護施設での生活、戦争を逃れるために始まった放浪の旅、1950年代の全国的評価、そして1961年のヨーロッパ旅行による創作の広がりなど、山下の人生が鮮明に浮かび上がります。

また、美術館では山梨出身の版画家・萩原英雄コレクションも紹介されています。萩原が遺した作品の数々は、戦争の悲惨さや人間社会への鋭い視線を表現しており、私たちに深い問いを投げかけます。

美術館から徒歩数分の場所には、1989年に開館した山梨県立文学館があります。文学館は、山梨にゆかりのある作家たちの研究・保存・紹介を目的として設立され、文学が社会の文化的・精神的基盤を支える役割を果たすことを目指しています。





館内には、樋口一葉や芥川龍之介といった日本文学を代表する作家の書簡や初版本、遺品が展示されているほか、山梨ゆかりの作家たちの歩みや作品を深く知ることができます。

特に印象的だったのは、日本文学を代表する長編小説『南総里見八犬伝』の特別展です。江戸後期の作家である曲亭馬琴によって執筆され、1814年から1842年の実に28年を要して完成した本作は、全106冊・98巻に及びます。

刊行当時から爆発的な人気を博し、19世紀には浮世絵や歌舞伎、講談など多方面で展開されました。その後も映画、漫画、ゲームなど数多くの作品に影響を与え、現代に至るまで受け継がれています。

美術館と文学館はいずれも、約6ヘクタールの敷地を誇る芸術の森公園内に位置しています。園内には日本的な風景と西洋的な造形が調和し、ヘンリー・ムーアをはじめとする国内外の彫刻が点在しています。散策や写真撮影に最適で、自然景観が豊かな文化空間です。

